

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第 5 号

冬春イチゴ育苗期の炭疽病防除の徹底について

8 月の台風等による多雨傾向で、7 月まで少なかった炭疽病が 8 月 5 半月の巡回調査で発病株率、発生ほ場率ともに増加しており、発病株率 5 % 以上のほ場も確認されました。

今後の 1 か月予報でも高温・多雨傾向であり、感染の拡大が懸念されるので、罹病株の早期処分等、防除対策の指導についてよろしくお願いします。

1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：炭疽病

3 発生状況

8 月 5 半月に巡回調査を行った結果、発病株率、発生ほ場率とも平年、前年より高かった。

(図 1)

- ・発病株率 0.7% (平年 0.3%、前年 0.02%)
- ・発生ほ場率 28.6% (平年 17.7%、前年 14.3%)

4 防除上注意すべき事項

- (1) 風雨などによって急速に伝染が拡大するので、長雨・台風等の前後にもできる限り薬剤散布を行う。
- (2) ほ場をこまめに見回り、発病株やその周辺株を速やかに除去・処分し、拡大防止に努める。
- (3) 育苗床の湿度が高いと発病しやすく、雨等の飛沫で隣接株に拡大するため、苗の間隔を空け風通しを良くする。
- (4) 窒素肥料を多用すると発病しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (5) 発病後に治療できる薬剤はないことから、葉かき作業直後や降雨前後を含めて定期的な予防散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (6) 低温処理時の注意事項
 - ア 夜冷短日処理や低温暗黒処理は、苗へのストレスがかかり発病を助長するので、入庫前に生育状況を確認し、必ず健全苗を用いる。
 - イ 入庫する際は、過湿を避けるため、苗を詰めすぎないように注意する。
 - ウ 入庫前および陽光処理時のかん水は、過度にならないように注意する。
 - エ 発病が多い場合は、周囲の苗も感染している可能性が高いため、低温処理をせず、普通作型に変更する。

- (7) 定植予定のほ場は、線虫対策を兼ねて必ず土壌消毒を実施する。
- (8) 定植後の発病株は周囲の土ごと掘り取り、残渣を残さないようにして、ほ場外へ持ち出し処分する。

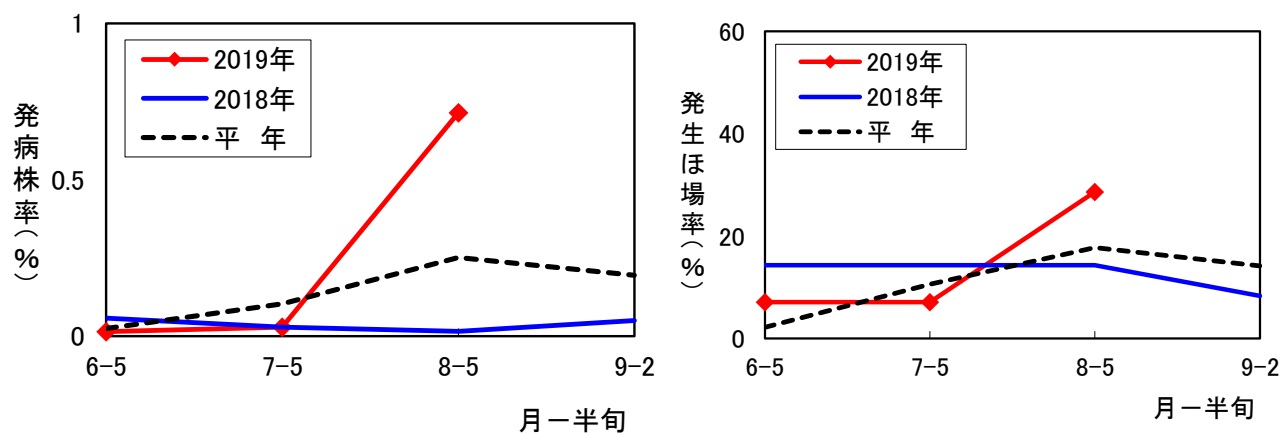


図1 巡回調査における炭疽病の発生推移



写真1 炭疽病による葉の汚斑



写真2 炭疽病による葉柄の褐変

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

